

## 運営方針

【法人の目標】

**正しく、明るく、健やかに**

【保育目標】

- ① 自立心を育てる  
自分のことなど、最後まで頑張る子
- ② 豊かな心を育てる  
自然を愛し想像力豊かな子
- ③ 体力づくり  
心身ともに健康で明るい子
- ④ 社会性を育てる  
礼儀正しい子

### 《幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と保育者のまなざし》

#### ① 健康な心と体

- ・自分の好きなことを見つける
- ・持てる力を活かし、様々な遊びに取り組む
- ・命を繋ぐ『食』に関わる

【内容】

子どもが遊びに夢中になれる環境を用意し、子どもの心の動きに注目する。

子どもが自分で決めた目標に向かう姿を見守り、応援する方法を考える。

主な活動:散歩・体操の日・運動会・グリンピック・遠足

#### ② 自立心

- ・自分の得意を見つける
- ・生活に必要な手順が分かり、進んで参加しようとする

【内容】

子どもの姿を『できた』『できなかった』で判断せず、そこに至るまでのプロセスに目を向ける。

子どもの持ち味を見極め、後押ししながら子どもの心の動きを観察し見取っていく。

主な活動:防災訓練・イブニング保育

#### ③ 協同性

- ・一緒に遊びたい友達を見つけ、時間をたっぷりと費やして遊ぶ
- ・同じテーマに向かって相談したり、工夫したり、話し合ったりする中でそれぞれの役割を見つける

【内容】

友達と討論したり調べたりしたことを自分の考えの元として、経験が重ねられるよう

群れる工夫・手を使う作業・相手がいないとできない遊びを具体的に考え準備する。

子どもの遊びが行き詰った時には、その後の展開がもたらされるようさりげなく導く。

主な活動:節句・再現あそび・クラスミーティング

#### ④ 道徳性・規範意識の芽生え

- ・順番を守り、決められたルールの中で遊ぶことができるようになる
- ・生活で体験したことを再現して遊ぶ
- ・異年齢での関わりを楽しむ

##### 【内容】

ルールや相手のある遊びをたくさん重ねることで、うまくいった経験・うまくいかなかった経験を積めるようにする。

やがて「こんな決まりがあつたらいいね」と子どもから提案が生まれていく力を育む。

主な活動:交通安全教室・手洗い教室・集団ゲーム

#### ⑤ 社会生活との関わり

- ・自分の家族・友達の家族・地域の家族と触れ合う
- ・自分の住む街や、自分を囲む環境に関わる

##### 【内容】

子の育ちを園だけのものとせず、『地域社会で育てる』という意識を持つ。

消防署や警察署、園に食品を運んでくれる人・近所の畑で農作業をしている方など、地域を構成している方との交流を積極的に図る。

地域の方や保護者から頂いたアイデアを保育に活かす。

主な活動:おやこデー・散歩・遠足

#### ⑥ 思考力の芽生え

- ・様々な事象に積極的に関わる中で得た知識を基に、友達と話し合ったり新たな方法を見出したりする
- ・友達の良さを知り、相手の意見を受け入れる

##### 【内容】

子どもが遊びを通して不思議さやうまくいく方法に気付けるよう、子どもの興味関心はどこにあるのか観察し、意図的に自然物や道具を用意する。

子どもとの対話を大切にし、自身の考えをやがて言葉やしぐさで伝えられるよう育む。

#### ⑦ 自然との関わり・生命の尊重

- ・自然の不思議さや美しさに気付き、心で感動したことを言葉で表現しようとする
- ・自分の身の回りのものを大切にし、協同しようとする

##### 【内容】

作物の栽培を通し、生命の始まりから終わりまでを経験する。

子どもの興味関心を引き出し、「何を育てようか」「どう育てようか」「育てたらどうしようか」「どんな準備が必要か」を話し合う。

風向きや木々の様子・生き物の姿・温かさ・日の当たり方など季節ごとに姿を変える

自然との出会いを提供する。

子どもが心で感動したことを言葉で表現する時を一緒に過ごしたり、後ろから見守ったりして子どもがじっくり感じる時間を保証する。

主な活動:クッキング・お別れ会

## ⑧ 数量・図形・文字等への関心・感覚

- ・文字などに興味を持ち、日常の中で触れ合おうとする
- ・生活の中で必要なものが分かり、活用しようとする

### 【内容】

子どもが興味を持った時に、手に取ったり思いを叶える手段を知ったりできるよう自由に使えるものやとことん熱中できる環境を用意する。

子どもを大人の意のままに誘導することなく、子どもの主体的な生活の中にそっとあそびが深まる仕掛けを仕込むよう努める。

## ⑨ 言葉による伝え合い

- ・心を通わせる仲間と一緒に、豊かな文化に触れることを楽しむ
- ・安心できる関係の中で、自分の思いも相手の思いも大切にしようとする

### 【内容】

指さしや表情・行動・喃語などに代弁したり共感したりして、言葉にならない思いを受け止めていく。大人との安定的な関係の中で、安心を感じ五感を言葉に換えていく方法を伝える。

様々な物語に触れ合うことで新しい言葉と出会い、その言葉の意味や使い方を知るきっかけを作る。

## ⑩ 豊かな感性と表現

- ・仲間と一緒にワクワクしながら創造し、出来上りを楽しみにする
- ・一人ひとりの違いや良さを認め合う

### 【内容】

子どもの目線と大人が目線では差異があることを理解し、子どもと一緒に体験すること、子どもと一緒に心を動かすことを大切にする。子どもの遊びを観察し、さらなる発展となるほんの一押しができるように寄り添う。

主な活動:音の日・季節の行事・色の日

主体性とは「自分で考えて行動する」ということを示します。

人間の主体性は受け身から始まります。あやしたりお世話を「してもらう」経験により心地よさが広がり、やがて「やってみよう」が始まるのです。しかし、いつでもどんなことにも「やってみよう」と思えるとは限りません。誰にでもある得手不得手により、自然と伸びやすい方面と手を伸ばしにくい方面があります。保育教諭は、常に子どもと一緒に生活する中で「この子の良さは何だろう」「何ができるようになると今より過ごしやすくなるだろう」という視点で観察しています。そして仕掛けを考えます。「どこに」「いつ」「どんな」仕掛けを「どのくらい」用意しようか…

そして、その仕掛けに子どもがどう反応したかを記録します。これが教育および保育です。

主体的な教育・保育とは、「自分で考えて行動する子」を量産することではなく子どもがモノや人と繋がろうとする姿を見取る保育教諭のまなざしのことを指します。

私たちは、子どもが自分の中にある考えやアイデアを追求し試行錯誤することを保育教諭が支える『主体性を育む教育・保育』を目指しています。